
高容量 ESA 製剤から HIF-PH 阻害薬への切り替えによる経済性

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○矢野利幸 赤峰太一 林田征俊 戸村秀志 山口貢正 河津多代 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司
船越 哲

【背景】

当院では、高容量 ESA 製剤投与患者に対して HIF-PH 阻害薬の切替えを行い、Hb 値 10.0~12.0g/dL を目標に内服量調整を行っている。

【目的】

epoetin- κ から roxadustat(Rox)と daprodustat(Dap)へ切り替え、貧血改善効果に加え、経済性等を縦断的に検討する。

【対象】

epoetin- κ 注 9000IU/w を Rox 300 mg/w と Dap 6mg/d へ切替え、2021 年 12 月末時点で内服している Rox13 名と Dap20 について検討した。

【結果】

Hb 値を目標値に維持させながら両剤ともに平均投与量の減量が可能で、12 月末時点では、薬価一人あたり Rox 2,960 円/週 Dap 2,343 円/週となり、epoetin- κ 注 9000IU/週と同額または廉価となった。

【考察】

epoetin- κ 注射液から HIF-PH 阻害薬の切り替えにより、Hb 値を維持しながら HIF-PH 阻害薬の減量が可能であった。また、新薬である HIF-PH 阻害薬の経済性が、バイオシミラー ESA 製剤と同等か上回ることは、医療経済上大きな意味があると考えられる。